

第21回秋芳地域審議会（報告）

日 時

平成27年9月28日（月）18：30～20：30

場 所

美祢市秋芳保健センター1階 健康相談室

（出席者）

秋芳地域審議会委員 12名

永嶺克博会長、中村久副会長、安富善政副会長、
藏本隆博委員、長谷京美委員、藤原波子委員、斉藤巧委員、
柿村尚登委員、小田村治久委員、山縣博行委員、中村保義委員、植山正雄委員

秋芳地域審議会事務局 3名

秋芳総合支所 所長 浜口 賢真
総合窓口課 課長 佐々木 彰宣
主事 福本 敦

（欠席者）

秋芳地域審議会委員 3名

山縣美智子委員、田原義寛委員、斉藤秀一郎委員

（傍聴者） なし

概 要

（1）開会

佐々木課長より開会

（2）会長あいさつ

永嶺克博会長よりあいさつ

（3）議 事

（1）第1次美祢市総合計画実施計画（第6期）の執行状況に係る意見の集約について
意見調査票により事前に提出のあった意見について提出委員より説明、事務局が
現状説明及び報告。秋芳地域審議会の意見として提出するため内容の審議。

①救急医療体制の充実について

（中村久副会長）受入拒否が美祢市では多いことを聞いているが、理由が分かれば教えて欲しい。

（事務局）はっきりとしたことは分からないが、先生が不足しているのではないか。

（永嶺克博会長）また事務局・本部の方で確認をしていただきたい。

②地域住民グループ支援事業の充実・サロン活動について

(事務局) 年ごとに予算をつけているが、28・29年度については具体的な意見を取り入れ予算を調整することで、事業を充実していくとよい。各担当課で検討していく。

(中村久副会長) これについては社協が3万円の補助をしている例がある。

(藤原委員) 申請すれば許可は出ると思う。しかし、リーダーが行き詰っている。高齢化によって行動範囲が狭まっている。年に一回は研修を実施しているが気楽で参加しやすい研修を増やしていくべき。

(事務局) 市では高齢福祉課が実施している。計画書36ページの地域住民グループ等の支援というところで、課題としてグループにおける活動の担い手の育成が課題となっている。6期計画においても活動に対する助成を引き続き行うと書かれている。詳細は担当課へ。

(藤原委員) みんなで集まって例えば予防体操でもこんなものがあるという案をリーダーに与えると幅が広がると思う。材料を担い手に提供するとよい。

③ジオパーク活動の推進について

(長谷委員) この意見は認定前のもものではあるが、地域によってジオに対する認知度が違う。9月の広報にジオポロシャツの販売を公民館でも実施したと載せているので市民の認知度を高めるいい機会になればよい。

(山縣委員) ジオパークという名前は知っているが自分たちの生活にどのように関わってきているか説明はできない。出前講座をしてもらってもまだ理解が薄い。

(中村久副会長) 島原を訪れた時に聞いた話では、行政主導のジオが100%で民間主導は0%だった。市が先頭をきって取り組んでいくべき。また市民も待つのではなく自分から学びに行くことが大事。

④秋吉台トレイル推進事業について

(藏本委員) 観光協会は秋吉台の中道を走るようにコース化しているがもともと歩く道である。自然環境をまず守る、歩行者優先であることが前提である。走っている人が歩いている人にあたると転び、けがをするので危ない。国立公園ですすでに実施をしていない。

⑤ジオパーク推進活動について

(藏本委員) 秋吉台に観光に来てガイド(マップ)、案内看板、ジオサイトの整備がきちんとできていない。市から市民への指示もない。まだ地元が準備できていない。

(安富善政副会長) 出前講座に何度も行ったが、ジオパークとはこういうものという説明がない、できない。地域に沿ったジオというものが固まっていない。今回認定に向けて突っ走った感がある。秋芳洞商店街の活性化委員会の中で出た意見が、ジオパークに認定されたのでシルバーウィークに全面的にアピールしたかったがのぼり、チラシがない。ジオパークの袋を配ってまわったが、認定をされた後トーンダウンしているのでは。ジオガイドはいまだ5人だが増えていく気配がない。ジオガイドの勉強中の方もいるが、地質に関する知識は地元の方も詳しいのでその辺も上手に地元の方を使うなどしては。ガイドを頼む窓口があいまい。(エコツーリズム・ジオガイドの一元化)美東の金麗社は観光客搬入のチャンスだったが、のぼりもガイドもなかったため機会を逃している。

⑥住環境の整備と定住促進

(斉藤委員) 担い手の高齢化が進んでいる。以前法人で周南に研修会にいった。担い手育成対策として市や町では定住・永住をできる人を中心とするという内容だった。

(永嶺克博会長) 県は担い手育成日本一を目指している。しかし、産業がしっかりしていないと永住につながらないため定着が難しい。まず地域づくりに力を入れないといけない。

(中村久副会長) 農業に関して補助金が5年もらえる制度がある。法人として雇われるのであれば就職なのでくる人もいる。自分で農業を始める(起業する)のは難しいので集まらない。生産はできても販売までいかない。貸すことができる状態の空き家が少ないため定住も難しい。

(柿村委員) 国勢調査で各家庭回っているが、たしかに空き家が多く高齢世帯がほとんど。担い手育成を真剣に考えないと集落がなくなる。

(植山委員) ある程度所得がないと人も集まらない。

(永嶺克博会長) 美祢市の一番の課題は人口問題。土地の有効利用、空き家対策をしっかりと。8月5日に地域審議会の会長副会長会議があり、そこでも空き家対策をしっかりと意見として出した。

⑦その他意見

(植山委員) 防災関係でこの前起きた北関東豪雨災害は予想以上の雨が降った。堤防の決壊など大きな災害が起きていてこの地域でも例外ではない。さきほどの高齢者対策も含めて地域の方同士のコミュニティがしっかりとしたものであるべき。具体的にマップ的なものが必要なのでは。防災無線の設置状態が美祢市・秋芳町・美東町それぞれ別々の形態となっており対策をしていく必要がある。

(中村久副会長) 合併前最後の年にハザードマップを作ったが地域とマッチしてない。本流だけで支流の表示がない。有線はずしてしまっ肝心な放送を聞くことができない世帯が多い。サイレンを鳴らすなどの対策もできていない。合併時に有線放送をどうするかという問題があった。美祢・美東では全世帯一斉に伝える手段があるが秋芳はない。

(事務局) 拡声器だけの問題だけでなく施設全体が古くなって根本を見直す時期に来ている。

(安富善政副会長) 有線が壊れると型が古くて交換する部品がないという状態だ。

(永嶺克博会長) 過疎地域の問題に関して、今年も共和地区全域で黄色い旗運動というものを実施し始めた。これも高齢化問題の対策として有効。美祢市全体に広がればいい。

(藤原委員) 近所の方から災害時の避難場所がどこか聞かれる。認識が薄いのでは。地区ごとに避難する場所を記したものを全戸配布しているのでよく確認を。

(永嶺克博会長) 行政改革の一環として、中村久副会長がされている活動などができなくなることに對して市が問題意識を持って調査しながら対応策を考えていく必要がある。

(4) その他

(5) 閉会

永嶺会長により閉会